

薬師寺永子の
(本誌タイ通信員)

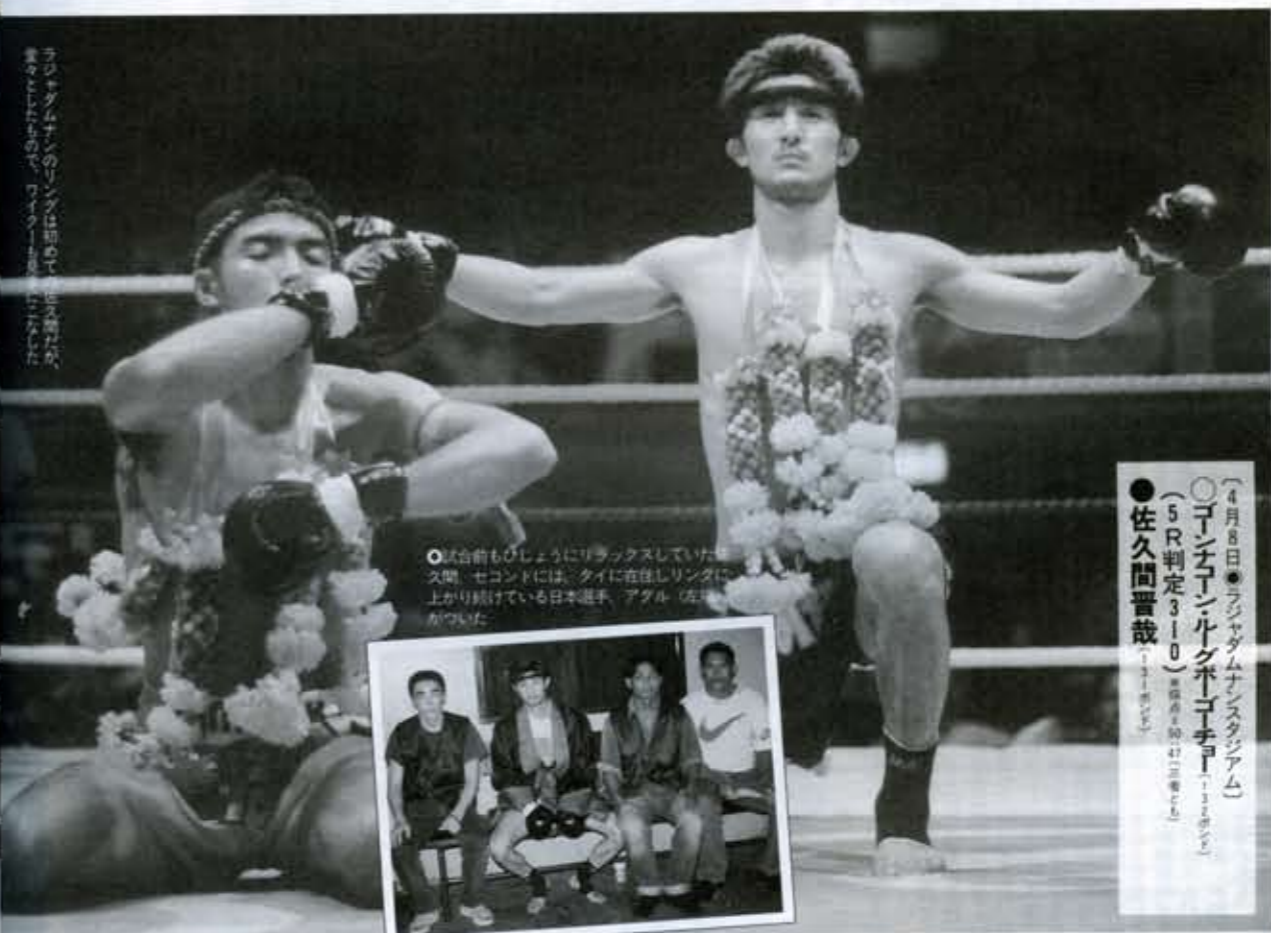
MUAY THAI通信

REPORT by Yakushiji Eiko

—第79回—

この経験を活かせれば、 4・29昭島で何かが起こるかも!? 階級が上のタイ人を相手に 佐久間晋哉、大健闘!

最近、新田明臣選手、鈴木秀明選手、ソムチャイ高津選手と日本人の来タイがあいついでいますが、今回のレポートは全日本フェザー級王者の佐久間晋哉選手(八王子F.S.G.)の試合。4月29日にも東京で試合が組まれている佐久間選手は、そのわずか3週間前にラジャダムナンに乗り込みましたか…



4月8日●ラジャダムナンスタジアム
○ゴーンナコーン・ゴーンチャイ(5R判定3-10) 佐久間晋哉(3-10) 佐久間晋哉



ラジャダムナンのリングは初めて。慣れず、緊張したもので、ワイヤーも踏んでしまった。

○試合前もひしょりにリラックスしていたが、2R、セコンドには、タイに在任しリングに上がり続けている日本選手、アタル(佐久間)がついた。

試合前の控室。普通、日本人選手は、声をかけるのははばかれるほど緊張していることが多いのだが、全日本キックボクシング連盟・フェザー級王者の佐久間はひじょうに表情が柔らかく、特に気負っている様子も感じられなかった。この日、佐久間のセコンドには、タイに住んでムエタイに挑戦し続けている日本人、アタルがついていた。佐久間は練習のためにタイを訪れると、アタルの所属しているチャッティジムに行くのが一番多いそうだ。タイには何度もきている佐久間だが、スタジアムで試合をするのはこの日が初めて。外国人を専門に教えているジムのオーナーであるチャッティ氏は、かつて山本ジムでワンダーマン室戸を教えたこともあり、日本人とのかかわりは深く長い。今回、そのチャッティ氏は一般の賭け師をたまたまの策を練り、「ムアイ・マイ・ナ・クラップ 新人ボクサーなんです」という文字の縫いつけたトランクスを佐久間にはかせた。ルンビニスタジアムJrライト級王者・ラムナムムーン・ソー・スマーリーを思わせる細身で長身の佐久間。ヒザ蹴りを重視するムエタイに最も向いていると言われる体形である。一方、対戦相手のゴーンナコーンは、リーグボーゴーンチャイジムの新鋭。佐久間の試合は急に決まったため、その相手に選ばれたゴーンナコーンも準備ができておらず、最初の計量では体重が133.5ポンド(ライト級)もあった。ただでさえ、佐久間にとって不利な130ポンド(1/2ライト級)契約であったにもかかわらずだ。



○相手のゴーンナコーンは、当日体重オーバー。体格も明らかに佐久間より大きかった。リーチの長い佐久間だが、ゴーンナコーンも負けていない
○佐久間は粘り強めに攻撃を仕掛けていたが、空振りが多かった



○2R、ローキックを連発され、つまずいて倒れてしまった佐久間。あがきい場面だったが、ゴーンナコーンは距離の取り方がうまい。蹴りに阻まれて、佐久間はなかなか接近できなかった



4Rに最大のチャンス到来!
いけ、佐久間!
○4R、佐久間のパンチがゴーンナコーンを捕らえる。会場は大音量に包まれた。佐久間の最大のチャンスだったが…



佐久間のセコンドについてアタルが、
壮絶KO負け!

○タイ在住の日本人選手として注目されているアタルだが、3月12日のラジャダムナンスタジアムで、左フックのラウンド初めのKO負けを喫した。タイムはわずか1Rを先打つ。大の年になってもアタルは振返って運ばれた

結局、ゴーンナコーンが落とせたのは3ポンド。当日の朝、129ポンドしかなかった佐久間は、水を飲まされて131ポンドまで上げたという。二人の体を比べると、明らかにゴーンナコーンの方が体が厚みがあり、体格的に有利であることは一目瞭然だった。試合が始まると、前へ前へと積極的に攻めていった佐久間だが、2Rには、体重の乗った重い蹴りをしかりま受けていたその右足はすっかり真つ赤になっていた。そこにさらに執拗にローキックを当てられ、さらにパンチを打ち込ま

れて逃げるときに、佐久間はつまずくように両手をついて前のめりに倒れてしまう。本人いわく、「日本ならダウンだった」という状態だ。幸い、ダメージはほとんどなく、カウントも数えられずに試合は続行されたが、今度はゴーンナコーンの距離の取り方と前蹴りに阻まれて、佐久間は中に入る事ができない。決して一方のみにやられているわけではないのだが、佐久間の攻撃は空を切る事が多いため印象は悪かった。そして迎えた4R、佐久間に最大のチャンスが訪れた。

パンチが連続してゴーンナコーンの顔面を捕らえたのだ。観客からも大音量が起った。しかし、それも長くは続かず、最終ラウンドになると、ガードを固めて守りに入ったゴーンナコーンに佐久間は崩すことができず、3-10の判定負けを喫した。

内面的には分らないが、試合後も試合前とあまり変わらない表情の佐久間だが、さすがにガツカリしているようで、「これが今の実力です。負けちゃったら何も言えないですね」とうなだれた。でも、「この闘いは」たぶん次の試合に活かせると思います」とも語ってくれたので、次回、4月29日の日本での闘い(VSアラビアン戦)に注目して欲しい。

ジャッジがつけた数字をみれば完敗かもしれないが、階級が上のタイ人を相手に最後まで気後れすることなく、積極的に攻撃し続けたという点では、評価していいと思う。本人の言う通り、ステップアップのためのいい経験になることを望みたい。

